

特別連載 連載にあたって

著者	佐藤 幸人
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア経済
巻	51
号	4
ページ	45-46
発行年	2010-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00007107

特別連載 アジ研の50年と途上国研究

連載にあたって

さとう ゆきひと
佐藤 幸人

アジア経済研究所は約1年半の財団法人時代を経て、1960年7月1日、特殊法人として設立された。1998年の日本貿易振興会（現日本貿易振興機構）との統合を経て、2010年7月1日に設立50周年を迎える。研究所誕生から半世紀という節目にあたって、研究所がこれまで歩んできた道程を振り返り、現在、自らがどこに立っているのかを見定め、これから進むべき方向を考えてみようという声が現れ、有志が集うことになった。2009年の初めから有志のタスクフォースを結成して、どのような活動をおこなうのかについて議論をはじめ、アイデアを出し合い、実現の可能性を検討した。そのひとつとして、研究所の発展に大きな貢献をされてきた先達からお話をうかがい、記録として残そうという企画がまとまった。それが本号からはじまるインタビューの連載である。2009年5月にタスクフォースから本誌編集委員会に提案して了承を得、正式に活動をスタートした。

連載は2011年3月まで12回を予定している。インタビューは2009年7月から順次開始し、すでに10回分については完了している。まず前半6回では、アジ研が対象とする発展途上地域を6つに分け、それぞれ1組ずつおこなったインタビューを掲載する。東アジアは小島麗逸氏に、東南アジアは末廣昭氏に、南アジアは山

口博一氏と平島成望氏に、中東は清水学氏に、アフリカは吉田昌夫、原口武彦、林晃史、島田周平の4氏に、ラテンアメリカは細野昭雄氏にインタビューをおこなった。後半6回は、研究所が取り組んできた主要な研究テーマあるいは事業に関するインタビューである。開発研究については岡日出紀氏に、貿易研究および統計分析については長田博氏に、動向分析については木村哲三郎、竹下秀邦、浜勝彦、福島光丘の4氏に、図書館については松本脩作氏にインタビューをおこなった。このほか経済協力と法律研究について準備している。聞き手および原稿の整理は、現在研究所に勤めるそれぞれの分野の後輩がおこなった。全体のとりまとめと調整は佐藤幸人、川中豪、濱田美紀が世話役として担当した。

アジ研の50年を振り返ることが主旨とはいえず、先達にはそれぞれの分野における事実経過の説明をお願いしたわけではない。生き活きたダイナミズムに触れるため、むしろそれぞれの個人的な体験や思いを積極的に語っていただいた。また、アジ研での活動ばかりでなく、研究所外でされてきたことや、研究所を離れた後のご活躍についてもお話をうかがっている。それを通して、日本そして世界の途上国研究におけるアジ研の位置を理解することができたと

思う。

もとよりこの12回のインタビューによって、アジ研50年の研究活動をすべて網羅できるわけではないが、可能なかぎり広くカバーすることに努めたつもりである。ご不満を覚える向きもあるかと思うが、ご了解いただきたい。

当初はあまり深く考えていなかったが、半世紀というのはちょうどよい時機だったと思う。今回、インタビューの聞き手の多くは、研究所において先達と同僚として一緒に研究をおこなった経験をもっている。また、比較的早くに研究所を離れた方たちとも、アジ研の研究会をはじめ、学校や学会で直接接触してきた。しかし、あと10年もすれば、アジ研の中堅のなかで、研究所の草創期を担った先達を直接知るものはかなり少なくなっているだろう。深いレベルで知の伝承をおこなおうとすれば、経験と記憶を共有していることは重要である。その意味で、今は先達にインタビューをおこなうよいタイミングであった。

また、複数の先達のお話を重ねていくという構成は、司馬遷の史記のように、研究所の歴史を立体的に描き出す効果をもったと思う。連載を読み進めれば、異なる先達の話が時に交錯することを発見するだろう。しかも、往々にして別の見方をしている。そこに物事の多面性や異なる知性の間の緊張が浮かび上がってくる。研究所が予め定められた一本道を進んできたのではなく、模索そして時としてあった摩擦を経て、今に至っていることに気づかされるのである。

このインタビューの連載は、現在研究所にい

るわたしたちに対して、そして広く途上国研究に携わる人びとに対して、多くの示唆を与えるものとなることを期待し、また確信している。第1に、アジ研という日本の途上国研究の中核的な組織において、どのように知的営為が積み重ねられてきたかを理解することによって、今後の方向性を長い射程から考えることが可能になるだろう。第2に、何をなしてきたかを明らかにすることは、同時に何をなしてこなかったかを明らかにすることでもある。今回、過去を見つめ直すなかで、アジ研の研究における欠落や弱点を見出せるかもしれない。

なお、50周年の活動の一環として、『アジ研・ワールドトレンド』において特集を組み、アジ研が新たに取り組むべき課題を議論することになっている。また、50周年を記念する活動としては、ほかにも図書館の展示や講演・講座を計画している。この連載はそれらの活動と結合し、化学反応を起こすことによって、アジ研および途上国研究の過去・現在・未来に対する思考の深化にいつそう資するに違いない。ぜひとも『アジ研・ワールドトレンド』の特集もお読みいただき、講演や展示にも足を運んでいただきたい。

最後に、インタビューに快く応じていただいた先達の方々に心より感謝を申し上げたい。また、通常の業務に忙殺される合間を縫って、インタビューをおこない、原稿の整理をしていた聞いた聞き手の方々にも深く感謝している。

(アジア経済研究所新領域研究センター)